

本日 12/26 定検入り 福島を忘れない！ 原発事故を繰り返すな！

停止した伊方原発は、そのまま廃炉に！

伊方3号機は定期検査のため、12月26日には運転を停止する見込みです。危険な原発は停止したまま廃炉にすべきです。

巨大地震警戒がでていのに「運転継続を原則」では危ない！

四国電力は、南海トラフ地震の「臨時情報（巨大地震警戒）」の場合にも、伊方原発の運転継続を原則にする方針です。

伊方原発は、南海トラフ震源域の真上にあがり、目の前の海底には中央構造線活断層帯があります。立地不適の場所にある原発です。

東から西に短時間で連動した安政東海地震と南海地震(1854年)

臨時情報（巨大地震警戒）は、南海トラフの東西いずれかで、マグニチュード8以上の

伊方原発をとめる会

790-0003 愛媛県松山市三番町5-2-3ハヤシビル3F
電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991
HP <http://www.ikata-tomeru.jp>

南海トラフ地震
臨時情報後も伊方運転
方針「安全性影響なし」

四国電力は、南海トラフ地震の「臨時情報（巨大地震警戒）」の場合にも、伊方原発の運転継続を原則にする方針です。

（上）愛媛新聞 2019年12月4日付一面記事及び
（下）気象庁資料 臨時情報（巨大地震警戒）に一部加筆によるコラージュ

○臨時情報（巨大地震警戒）＝半割れ（大規模地震 M8.0 以上）/ 被害甚大ケース

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生

※ 1854年の安政東海地震は32時間後に安政南海地震に連動した。（とめる会事務局追記）

西側

地震が発生した場合、もう一方の側に「巨大地震警戒」を発するものです。どのくらい時間をおいて連動するのか予測できません。「運転継続を原則」など、あり得ません。

とめたまま、廃炉にするほかない

四国電力は南海トラフ地震と中央構造線活断層帯との連動を考慮していません。強烈な揺れのもとでは、確実に運転を停止できるとは限りません。危険な伊方原発は、とめたまま廃炉にすべきです。

行き先ない使用済みMOX燃料

12月26日からの伊方3号機定期点検では、国内商用原子炉で初めて16体の使用済みMOX燃料が出てきます。危険な「超ウラン元素」が増えた核廃棄物。行き先なく、長期にわたり伊方に留め置かれる可能性大です。

しかも、四国電力は新たにMOX燃料を5体装填して再稼働させる計画です。使用済みMOX燃料をこれ以上作り出してはなりません。